

第13回 EST交通環境大賞

主 催: EST普及推進委員会、
公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団

後 援: 国土交通省、環境省、警察庁、
一般社団法人日本自動車工業会、
公益社団法人日本バス協会、
一般社団法人日本民営鉄道協会、
一般社団法人全国ハイヤー・タクシー連合会

協 力: 公益社団法人土木学会、一般社団法人交通工学研究会、
公益社団法人日本交通計画協会、
一般財団法人日本自転車普及協会
一般社団法人日本シェアサイクル協会



環境的に持続可能な交通

Environmentally Sustainable Transport

目次

1. 受賞団体の取組み内容

【大賞 国土交通大臣賞】T-PLAN株式会社、
一般社団法人姫島エコツーリズム

【大賞 環境大臣賞】鹿追町

【優秀賞】世界遺産石見銀山大森地区におけるGSMを中心とした
地域内交通整備事業コンソーシアム

【奨励賞】奥入瀬溪流利用適正化協議会、
奥入瀬溪流エコツーリズムプロジェクト実行委員会

【奨励賞】城崎温泉交通環境改善協議会

【奨励賞】和歌山県

2. 審査講評

3. 表彰式

4. 各種報道

1. 受賞団体の取組み内容

【大賞 国土交通大臣賞】 T-PLAN株式会社、
一般社団法人姫島エコツーリズム

【大賞 環境大臣賞】 鹿追町

【優秀賞】 世界遺産石見銀山大森地区におけるGSMを中心とした
地域内交通整備事業コンソーシアム

【奨励賞】 奥入瀬溪流利用適正化協議会、
奥入瀬溪流エコツーリズムプロジェクト実行委員会

【奨励賞】 城崎温泉交通環境改善協議会

【奨励賞】 和歌山県

【大賞 国土交通大臣賞】 T-PLAN株式会社、一般社団法人姫島エコツーリズム 「離島の課題に再エネと小型EVを活用した取り組み」

T-PLAN株式会社の佐藤と申します。本日はよろしくお願いします。



T-PLANのご紹介

■会社概要

社名	T-PLAN 株式会社
本社	大分県中津市牛神404-11
設立	2006年3月
資本金	3480万円
代表取締役	寺下 満
社員数	26名（役員・社員）
事業内容	自動車、電機関連メーカーへの技術支援 発電・水処理プラント、通信設備の点検保守、現地調整 蓄電システム「青空コンセント」の開発・販売 再エネ電動モビリティ実証、導入支援

NAKATSU
OITA

■「青空コンセント」の実装

電動小型モビリティ向けオフグリッド充電システムです。
運用中はゼロカーボン・ドライブを実現、非常用電源としても有効です。

■脱炭素な地域の新たな移動創出

持続可能な地域づくりを目指し、小型EV活用による地域の新たな移動の創出に取り組んでいます。

フェリー乗場から観光客の送迎
グループホームで活用
公共交通への接続
国立公園内の移動

■受賞歴

- 2014年 低炭素杯2014ファイナリスト出場
青空コンセントと小型モビリティによるエネルギーの地産地消
- 2017年 第8回EST交通環境大賞「奨励賞」受賞（国土交通省）
青空コンセントと小型モビリティによる低炭素な交通社会の実現
- 2017年 低炭素杯2017「優良賞」受賞（環境省）
青空コンセントと小型モビリティによるエネルギーの地産地消
- 2017年 大分県知事より「感謝状」授受
先進的な環境技術の開発と導入による大分県づくり
- 2018年 おおいた低炭素杯2018「大分県知事賞」受賞（大分県）
- 2019年 低炭素杯2019「環境大賞賞状」受賞（環境省）
青空コンセントと小型モビリティ活用による低炭素な地域づくりと地域活性化
応募総数 全国1,428団体
- 2023年 第13回EST交通環境大賞「国土交通大臣賞」受賞（国土交通省）
離島の課題に再エネと小型EVを活用した取り組み

低炭素杯2019
環境大臣賞グランプリ受賞

弊社が姫島村を中心として行っている取り組みの活動をご紹介します。弊社は、会社自体は大分県の中津市にあります。もともとはエンジニアリング企業ということで、生産技術とか設計開発をしているメンバーが集まって会社をつくりました、13年ぐらい前に、大分県で当時自然エネルギーを活用した応用製品をつくらうという企業体がありました。私たちものづくりをしようということで、当時は、まだi-MiEVが発売される前だったのですが、電気自動車を作って太陽光で動かそうという取り組みを始めたのが、きっかけになります。現在は、「青空コンセント」というカーポート型の充電ステーション、小型EV用に太陽光の蓄電システムをつくりまして、これでEVを充電して、当時は低炭素の交通ができるのではないか、と取り組みを始めました。

近年はパーソナルモビリティと言われるキックボードとか、あと、国立公園でも走られているeバイクという電動アシスト自転車の充電エネルギーも再エネ化をしてカーボン量を減らそうという取り組みを行っております。

また、ものづくりをしながら、今は「ことづくり」ということで、これが姫島のご紹介する事業になるのですが、地域課題に合わせて蓄電システム、EVを運用し、持続可能な地域づくり、姫島の課題を解決しようというところで取り組みを行っています。

弊社が姫島村を中心として行っている取り組みの活動をご紹介します。弊社は、会社自体は大分県の中津市にあります。もともとはエンジニアリング企業ということで、生産技術とか設計開発をしているメンバーが集まって会社をつくりました、13年ぐらい前に、大分県で当時自然エネルギーを活用した運輸製品をつくらうという企業体がありました。私たちもものづくりをしようということで、当時は、まだi-MiEVが発売される前だったのですが、電気自動車を作って太陽光で動かそうという取り組みを始めたのが、きっかけになります。現在は、「青空コンセント」というカーポート型の充電ステーション、小型EV用に太陽光の蓄電システムをつくりまして、これでEVを充電して、当時は低炭素の交通ができるのではないかと取り組みを始めました。近年はパーソナルモビリティと言われるキックボードとか、あと、国立公園でも走られているeバイクという電動アシスト自転車の充電エネルギーも再エネ化をしてカーボン量を減らそうという取り組みを行っております。

また、ものづくりをしながら、今は「ことづくり」ということで、これが姫島のご紹介する事業になるのですが、地域課題に合わせて蓄電システム、EVを運用し、持続可能な地域づくり、姫島の課題を解決しようというところで取り組みを行っています。

大分県姫島村について

T-PLAN
Technological Planner Inc.

詩情と伝説の島「姫島（ひめしま）」

- ・古事記や日本書紀にも登場する詩情豊かな神秘スポット。
- ・古事記の国産み神話でイサナギとイサナメが12番目に産んだ島が女島（ひめしま）とされる。
- ・姫島産の黒曜石で作られた石器が中国、四国の縄文時代遺跡から発見されている。



国東半島の沖合約6kmに位置する離島



一島一村の離島、大分県唯一の村



国指定天然記念物「姫島の黒曜石産地」(瀬戸内海唯一の産地)
おきた姫島シオパーク (2013年9月14日認定)



国産民無形民俗文化財「姫島盆踊り」



姫島「車えび」



渚り線「アサギマダラ」(5月、10月)

大分県姫島村について

T-PLAN
Technological Planner Inc.



姫島へのアクセスは伊美港より



伊美港より約20分 (1日12便)



姫島での取り組み概要

■取り組みの背景

- 環境問題への意識**
 - 地球温暖化による環境の変化
 - 再エネを自家消費する取り組み
 - EVを再エネで走らせる取り組み
- 地域課題の現状**
 - 観光2次交通としてタクシー、バスが無く、移動手段はレンタル自転車のみ
 - 島内の移動に時間を要して観光や食事の時間が取れない
 - 高齢者や体が不自由の方、子供がいる家族連れには移動負担が多い島

■取り組んだこと

- 脱炭素社会の実現**
 - 再エネ蓄電システム開発とEVによる実証（ゼロカーボン・ドライブ）
 - 電動モビリティによる新たな移動の創出
- 離島における持続可能な地域づくり**
 - 観光2次交通の提供（EVレンタカー）
 - 地域活性化「姫島モデル」づくり

T-PLAN
Technological Planner Inc.

■姫島エコツーリズム設立

◆2014年6月～ 姫島エコツーリズム推進協議会

構成員：T-PLAN株式会社、株式会社おおいの姫島、姫島観光LLP
「島の風」、姫島村商工会、姫島女性の会「まぢょく」
NPOグループホームひだまり、かなんど工房
アドバイズ：姫島村役場、大分県車庫振興局
事務局：T-PLAN株式会社

◆2021年10月～ 一般社団法人 姫島エコツーリズム

構成員：T-PLAN株式会社、株式会社おおいの姫島、NPOひだまり、島の風
事務局：T-PLAN株式会社

■沿革

2013年 7月 蓄電システムと小型EVによる実証スタート
2013年 8月 離島での観光2次交通の課題解決に向けて取り組み
2014年 6月 姫島エコツーリズム推進協議会 設立
2015年 4月 姫島エコツーリズム（EVレンタカー）事業開始
2018年12月 おおいの低炭素杯2018「大分県知事賞」受賞
2019年 2月 低炭素杯2019「環境大臣賞グランプリ」受賞
2021年10月 一般社団法人 姫島エコツーリズム 法人化

■実施体制

支援

大分県

企画・運営・普及

T-PLAN株式会社

協力

【車両メーカー】
ヤマハ、日産、トヨタ、
ダイハツ、長谷川工業

協力

姫島村役場
姫島商工会

現地運営

一般社団法人
姫島エコツーリズム

協力・応援

姫島村民
姫島村事業者

この島で私たちが取り組んでいる内容は、先ほどご紹介させていただきました「青空 Consent」という蓄電システムを実験しようということで、弊社代表の出身である姫島にステーションを置いて、当時コムスという原付ミニカーがモデルチェンジしたということで、このEVを充電しようということで持ち込みました。いかんせん観光客の方に乗ってもらわないと、充電を減らすことができない、充電することができないということで、お客さんに乗ってもらってということで始めたのが、レンタカー事業の始まりでございます。

当時は弊社のメンバーで行っていたのですが、島の人たちに協力を仰いでいるうちに、島での課題がいろいろ出てきました。

そこで、みんなで協議会なるものを作って、観光の二次交通がないという課題を解決をすれば、島の滞在時間を有意義に過ごしてもらえないか、と話し合いました。どうしても帰りのフェリーの時間が気になる中で、自転車で観光周遊に出かけると、島を訪れる半分ぐらいの目的が車エビを食べに行こうという目的で来られるのに、自転車で一生懸命こいで帰ってきたら、食事処が満席なのです。帰りのフェリーの時間があるので諦めて戻ってしまうという、昼食難民がよく出る島でした。これを小型EVで島を周遊できれば、結果的にはお土産もゆっくり買えたり、食事もちょうんと車エビを食べて帰ってもらえます。リピーターの方も今、増えているという状況です。

この取り組みを弊社のメンバーでやっていたんですけども、任意団体として協議会を立ち上げて、それを2年前に一般社団法人化しました。これは観光に特化して、村と大分県とタイアップしてできるような取り組みにするためです。



■ 姫島エコツーリズム (EVレンタカー受付)

- ・貸出場所 大分県東国東郡姫島村2069
(姫島港フェリー乗場から徒歩1分)
- ・連絡先 TEL 0978-87-2022 / 080-6452-0263
- ・利用時間 9:00~18:00 (最終受付 17:00)
- ・店休日 不定休
- ・ホームページ <http://himeshima.tplan0301.com>
- ・運営主体 一般社団法人 姫島エコツーリズム

姫島エコツーリズム情報サイト
姫島の魅力をエコカーに乗って案内！



YouTube



Instagram

■ 姫島エコツーリズムはこんなところですよ



2015年レンタルスタート



手作りお土産も販売



2階はオーシャンビューのフリースペース



青バレイヤも頑張っています



カフェでは季節限定メニューも



毎日のパトロール中です



この姫島エコツーリズムという名前ですが、メインはこのEVのレンタカー事業です。全て小型のEVだけに絞りました。観光案内所と書いているのは、村役場に観光案内所と書いてほしいと言われて、特に村から委託されているわけではないのですが、これがあることで気軽に来てもらえる、何か村に協力しようということで、これも私たちが自分で看板をつけました。

ここはレンタカーの受付をしながら、カフェを行っております。島民と観光客の交流の場にもなっておりまして、もともと島にはスターバックスとかないものですから、観光客の方よりも島の方たちの憩いの場になっています。ここで新たな観光客との接点があることによって、観光客の方の思い出がよいものになって帰ってもらっています。

姫島で走る電動モビリティレンタカー

T-PLAN
Technological Planner Inc.



TOYOTA コムス

- ・原付ミカー
- ・1人乗り
- ・最高速60km

1時間	2,200円
2時間	3,300円
日帰り	5,500円



NISSAN ニュービリティコンパクト

- ・超小型モビリティ
- ・2人乗り
- ・最高速80km

1時間	3,300円
2時間	5,500円
日帰り	7,700円



YAMAHA ランドカー

- ・グリーンスローモビリティ
- ・4/7人乗り
- ・最高速19km

L4 1時間	4,400円
2時間	6,600円
日帰り	9,900円
L7 1時間	5,500円
2時間	8,800円
日帰り	13,200円



TAJIMA ジャイアン

- ・超小型モビリティ
- ・2人乗り
- ・最高速45km

利用停止中



SEGWAY MAX PLUS

- ・特定小型原付
- ・1人乗り
- ・最高速20km

1時間	1,100円
2時間	1,650円
日帰り	3,300円



TOYOTA APM

- ・グリーンスローモビリティ
- ・最大6人乗り（車椅子1台可能）
- ・最高速19km

1時間	5,500円
2時間	8,800円
日帰り	13,200円

6

この写真は姫島を走るEVで、左上は1人乗りです。上の真ん中が超小型モビリティと言われる走行認定を受けて走る前後に2人乗りの車です。そして右上が一番人気のグリーンスローモビリティです。こちらは4人乗りと7人乗りがありまして、日本全国でグリスロのナンバーワン所有事業者だということで、8台グリスロを所有しております。

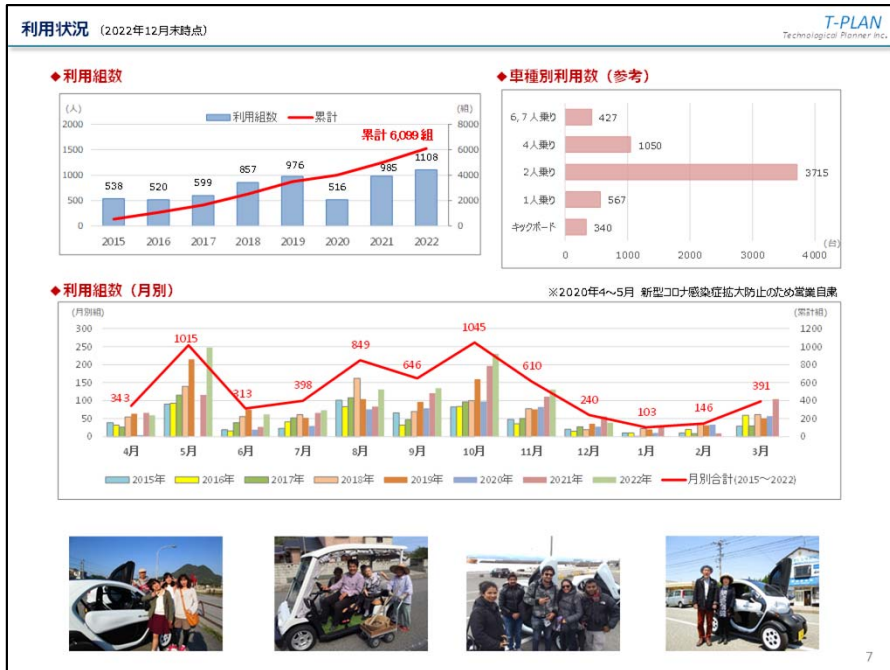
右下はトヨタ自動車さんに協力していただきまして、2021年の東京オリパラで走っていた大会専用車のナンバーを取っていただきまして走らせております。実はこれを走らせた経緯は、これまでグリーンスローモビリティに乗りたいという車椅子の方がおられました。しかし、どうしても車椅子を載せる対応になっていないという課題があった中で、

オリパラ大会専用車というのは車椅子も乗れるようになっているということで、トヨタさんも、それならぜひやってみましょう、ということで、車椅子の方も対応できるグリーンスローモビリティとなっております。

下の真ん中はキックボードです。こちらの若い方だけではなく、年配の方にもすごく好評な乗り物となっております。大体姫島は主要なルート回っても、約17kmぐらいです。グリーンスローモビリティでも、1周は回れる状況です。

姫島ではEVが日常的に走っているのが当たり前です。お土産屋さん、そして食事の場でも、こういった小型EVが停まっています。よく私たちが思うのは、子どもたちは小さい頃からこういったEVが当たり前の世界になっています。きっと、高校生になって、島外に、あるいは就職して都会に行ったときに、どうして小型EVが走っていないのかなとか思ってくれるんじゃないかな、と思っております。

島には信号が1つしかありません。これは教育用で作られているんですけども、今、姫島ではこういったEVが普通に走っています。ほとんどの観光客の方が乗ってくれているので、島民の方も快くあいさつをしてくれます。このグリーンスローモビリティは、人との親和性があるので、オープン、開放的で本当にすぐ声をかけてくれるというところがいいのです。メーカーさんと言われるように、本当にコミュニティスペース、単なる移動手段ではなくて、コミュニケーションを取れるような乗り物なので、それが島民とのコミュニケーションも取れている車両になっている要因なのかなと思っております。



2018年の11月に太陽光発電の充電ステーションを設置させていただきました。これは全て自社商品を使っております。ところがこれだけのEVを同時に6台、7台充電しても、電気が全然余ってしまっています。5月で条件がいいと1日で約58kWhぐらい発電しております。普通でも天気がよければ45kWhは充電しております。蓄電池がすぐに満タンになってしまいます。これは、売電は一切しておりません。自家消費が24,000kWhで、余った電気は系統を分けて事務所の電気に使わせていただいております。

2014年から正式にレンタル事業の許可を取りまして、今年6月末に、組数としては約6,670組に乗っていただいております。有名な観光地ではないんですけども、離島というところと、5月10月の気候のいいときに来島者が多いため、利用数が多い状況です。やはり1月、2月というのは、なかなかお客さんが来てくれないので、この時期は一部を特に島の外の地域に車を貸し出して使ってもらっているような状況です。

ゼロカーボン・ドライブの実現

T-PLAN
Technological Planner inc.

■電動モビリティから日常の電力まで

2018年11月より、姫島で走行する小型EVレンタカーはすべて再生可能エネルギーで充電されています。



姫島エコツアーで走る小型EVは、太陽光で自家発電した再生可能エネルギーですべて充電しており、受付事務所の電気にも利用しています。

運用開始	2019年1月
総発電量	38,883kWh
自家消費量	24,617kWh
再生エネルギー走行距離	49,981km

※2022年12月末現在

車両は全て再生可能エネルギーで充電！

事務所の電気も再生可能エネルギーを利用！

■観光の足から地域の足へ

姫島における二次交通の課題解決から、ファースト/ラストワンマイルの移動を支える地域の新たな移動を創出



島内周遊のレンタカー



フェリー乗場から続く二次交通



集配や配送



グループホームで活用



高齢者の外出支援



診療所への送迎（自家用有償）

私たちは観光二次交通ということで始めたんですけども、やはりこれを姫島ITアイランドにしたいという想いが最初からありましたので、姫島の地元の方に使ってもらうような取り組みをたくさん行っております。一番良かったなと思うのは、グループホームでの活用です。多少、雨が降ったり、風が強い日は利用しにくいところもありますが、低床というところで、特にグループホームでの外出支援ですね。今まで軽のバンで公園まで行っていたんですけども、定期的にグリスロを使ってもらっていて、今まで普段着で行っていたおばちゃんたちが、ちょっとう、お化粧とかいつもと違う服を着て車に乗ってくれるので、高齢者のQOLも上がっているんじゃないかなというところが目に見えて感じられます。

昨年、自家用有償登録を取りました。グリーンスローモビリティで2台登録しまして、今、どうしても島の診療所で透析を受けるおばちゃんの足がないものですから、週に2、3回、有料で送迎をさせていただいております。

姫島にはタクシーとバスはございません。タクシーを呼ぶなら、対岸からフェリーに乗ってきてもらわないとできないような状況です。もともとは島の人たちで協力し合って送迎もしてあげるといこともあるんですけども、どうしてもそこでまかなえないところを、うちの方で自家用有償という形で、運行させていただいております。自家用有償は地域外の人も乗れるということで、観光ガイドのツアーも、自家用有償で実施しております。

■モニターツアー実証（継続中）

【ゆる旅 in 姫島】

課題であった車椅子の方の小型EVでの観光周遊と、リモートガイドを取り入れた新たな観光のあり方を実証



トヨタAPM 2020東京オリパラ大会専用車



オンライン観光コンシェルジュの取り組み。ガイドはリモートで



観光×食事
ゆる旅 in 姫島

【VANKation in 姫島】

Withコロナ・afterコロナ時代を踏まえ、自分の好きな時間に働きながら観光するという

ニューノーマルなライフスタイルをVANKationというスタイルで、新しい働き方・観光の方法としてその有効性を実証



EV軽トラにモバイルワークステーションを搭載



島内のお気に入りの場所でワーク



島内のお気に入りの場所でカフェ

VAN車×仕事×観光
VANKation

EVを活用ということで、単なるお客さんに自由に乘ってもらうレンタカーだけではなく、いろいろな取り組みも行っております。

少しご紹介させていただくと、1つめはオンライン観光コンシェルジュという取り組みを行っております。もともとガイドさんが運転して地域内を走ろうとすると、白タク運送業との縛りでどうしてもできなかったところを、コンシェルジュ的にモニターをつけまして、普通のレンタカーを乗ってもらいながら、必要なときにオンライン上でガイドをするといった取り組みを行っております。これは、遠隔でガイドができますので、副業的に、例えば東京で姫島出身の方が働けるとか、そういったところにも枠組みを作っているところです。

下は、ダイハツ工業さんにご協力いただきまして、EVのバンを、農業に使うのではなくて、こういったモバイルワークステーションという荷箱を載せまして、ホテル、民宿の1部屋でワークをするのではなく、島の好きなところに移動してそこをオフィスにしてワークをしたり、ワーケーションをしたりという、バンライフとワーケーションを楽しむ、バンケーションという事業を行っております。こちらも今、大変好評で、キーワードとしてはやはり、エネルギーは再生可能エネルギーというところは共通しております。

■持続可能な地域づくりと脱炭素な移動を目指して

【主な実証支援例】



大分県日田市
(集落から最寄駅をつなぐ)

福岡県田川郡赤井町
(県界集落と市バスをつなぐ)

佐賀県鹿島市
(丘陵地帯の住宅街と駅前をつなぐ)

福岡県東臼杵郡宇美町
(別府⇒JR⇒道の駅をつなぐ)



福岡県田川郡赤井町
(駐車場より観光客送迎/送迎サービス)

鹿児島県出水市
(パーク&ライドで観光客送迎/送迎サービス)

大分県竹田市
(JR駅から城下町へ観光客送迎/送迎サービス)

熊本県阿蘇山上
(牧野道の有効活用/ガイドツアー)

昨年からはパラオ共和国で、姫島で行っている取り組みを移転できないかなというところで、パラオ政府の方からの強いラブコールもありまして、今年度はJICAの事業でアンケート調査を行っております。来年度は再エネシステムを持ち込みまして、パラオでの普及実証調査を行う計画をしております。

私たちが姫島で行っている取り組みを、いろんな地域に普及させたいというところで、自治体さんが多いんですけども、実証実験のお手伝いをさせていただいております。本当にいろんなところに姫島の車を持ち出しまして、やはり再エネで充電して実証実験をしたいというご要望があれば、青空コンセントという蓄電システムを持っていきまして、観光交通や地域交通の実証実験をさせていただいております。

観光交通は、本当に事業化できるかはある程度見えてくるんですけども、どうしても地域交通は本当に難しいところもありまして、地域が違えば諸事情が違ってきます。まずは車両の置き換えというところで、グリズロでできないかというところをお手伝いさせていただいております。

■持続可能な国に向けて

(独立行政法人国際協力機構) 2021年度第一回中小企業・SDGsビジネス支援事業
パラオ国小型電気自動車、太陽光蓄電システム、姫島モデルを活用した温暖化対策案件化調査



2022/11/2 掲載 (日本経済新聞)



202/11/25 掲載 (アイランドタイムズ)



最後に、こういった蓄電システムの実験をしようということが発端で、車のエネルギーをいかに削減しようかということを考え、観光客の方に乗ってもらったことが始まって今のレンタカー事業、こういったエコな取り組みをしています。この取り組みに共感していただいた女性にIターンで新潟から来ていただいたり、島でいろんな主婦の方がアルバイトをしてくれたりしています。今では大学生のインターンシップ生が毎年2人来たり、また研究課題にしたいというところで、いろんな大学の学生さんが来て研究課題にさせていただいたり、いろんな付随する活性化につながっているかなと感じております。

今は、青パパイヤの栽培も行っております。これはエコツーリズムとは関係ないのですが、少しでもCO₂吸収になるのかなというところと、姫島産のブランドをつくろうということで始めたもので、今年で6年目です。一生懸命頑張っております。よかったらパパイヤを買ってください。ありがとうございます。

今日はどうもご清聴、ありがとうございました。

ECOな取り組みを通して地域活性化
T-PLAN
Technological Planner Inc.

可能性感じ姫島へ

エコツーリズム取り組む会社に勤務

新潟市出身の伊井善恵さん(25)が移住

「地域に役立つ人間に」

地元の雇用創出と女性活躍

大学生インターンシップ研修

協議会の開催で多数の来島者

国際学生の環境研修や合宿

ミス・アース・ジャパン大分の環境研修

青パパイヤ栽培でCO₂吸収と特産品開発

13

ご清聴ありがとうございました

【大賞 環境大臣賞】

鹿追町

「『家畜ふん尿由来水素』を核としたESTモデル事業」

改めまして、鹿追町長の喜井知己と申します。今回は、私どもの町の取り組みを聞いていただく機会をいただいて、大変光栄に思っております。



『家畜ふん尿由来水素』を核としたESTモデル事業



脱炭素先行地域
北海道 鹿追町（第1回選定）

鹿追町長 喜井 知己



とかち鹿追ジオパーク





鹿追町の紹介



風にとけて心を裸足に
自然の恵みを感じる

- ・ 地 形 大雪山山麓 標高200～300m
東西17.7km 南北39.8km
十勝管内の純農村地帯
- ・ 気 候 年平均気温6.1℃(夏17℃、冬-12℃)
降水量932mm
- ・ 人 口 約5,099人(令和5年4月末時点)
- ・ 産 業 1次産業人口 35%
2次産業人口 8%
3次産業人口 57%
極端に2次産業が少ない構成
(令和4年実績)
- ・ 農 業 農業産出額 約238億円
畑作24% 酪農・畜産76%
乳牛21,000頭
肉牛10,000頭(乳雄及びF1)
- ・ 主要作物 牛乳、牛肉、ビート、馬鈴薯、豆類、
小麦、飼料作物、キャベツ、アスパラガス、そば
- ・ その他産業 然別湖を核とした観光産業
ファームイン等
観光客入込数 約78万人
自衛隊駐屯地(陸上自衛隊第5戦車隊)



火山と凍れしほが
育む命の物語



五感で感じる
鹿追の今
に輝く特別な瞬間

まず、町の紹介をしたいと思います。鹿追町は北海道にあります。北海道は実は4つの地域で表現されていて、札幌あたりは道央、函館あたりは道南、稚内・旭川近くまでは道北、それ以外の地域、われわれの十勝・釧路・根室・網走あたりは道東地域と表現されます。そして道東の中に十勝という地域がございまして、ここは19の市町村、帯広市と18の町村で一つの区域です。帯広市が165,000人ぐらいの人口で、それ以外の周りの町村も同じぐらいの人口ですので、十勝管内で33～34万人という地域です。十勝は全体的に農業が盛んで、十勝管内には23の農業協同組合があり、JAの取扱高は3,800億円レベルです。本町も、基幹産業は農業です。

町の面積としては400km²で、北海道でいうと決して広い方ではありません。半分ぐらいは大雪山国立公園、あとは約200km²が山林、それ以外のところは比較的平らな地域で農業が非常に盛んです。

昨年、令和4年度の農業産出額が約240億円で、農業の経営体が今200ぐらいあります。そして北海道は特に、経営面積が大きいということで鹿追町も200の経営体で平均経営面積が60ha近くあります。そして、畑作専業、酪農専業など、専業化も進んでおります。一部兼業の方がいらっしゃいますが、ごくわずかです。そんな中で、畑作は天候に左右されるので、毎年産出額が変わりますが、大体60億円から多いときで70億円ぐらい。そして酪農畜産で約180億円いきますが、そのうちの約130億が牛乳の生産です。年間約12万tの生産ということで、乳牛、ホルスタインで約2万t。肉牛で約1万tです。それから、わが鹿追町は、とかち鹿追ジオパークが10年前に認定されています。国内で46のジオパークがありますが、そのうちの一つです。

町の大きな特徴は、農業もそうですが、大雪山国立公園内にある然別湖です。あるいは、農家民宿ファームインの先進地でもあります。あともう1つは、陸上自衛隊の駐屯地、そして演習場が所在する町です。陸上自衛隊の演習場は約3,300haで、北海道の中では中規模と言われておりますけども、自衛隊の存在はまちづくりにとっても非常に大きいという状況になっています。



それから、農業の世界の循環というのは非常に大事です。酪農から出たふん尿を処理した後、また畑に戻す。こういう循環型の農業を心がけて行っています。あと、この施設は、運営費を生み出すために、基本的にFITで売電をしております。そして、発電する際に出る熱を回収して、この余剰熱の活用にも9年ぐらい前から取り組み、新しい産業を生んでいます。そして一番大きな目標として、地球温暖化の防止等に取り組んでいます。最初にできた施設は、このスライドの左下の環境保全センターで、実はここは酪農家11軒のふん尿を集めております。発電機は2台、100kWと190kWの290kWです。この発電料はそう多くないと思われるかもしれませんが、実はメタン発酵の施設ですので、24時間発電することができます。

FITの売電収入は大体年間6,000万円から7,000万円ぐらいです。実は家畜ふん尿由来の買取価格が非常に高く設定されておりまして、39円で買っていただいております。ただ、ここの施設の運営は7,000万円なので、儲かるかというと、そういうことではなくて、施設の運営費に充てて若干余りますので、それは貯金をして施設の更新に充てさせていただいております。イニシャルコストはちょっと別にして、ランニングコストは、実は町のものですので、いわゆる一般財源で、税や交付税を入れることなくこの売電収入、酪農家さんのための手数料で、ずっと賄えているという手前味噌ですけども、役所がやる施設では、非常に優秀な施設です。

もう一つ左下の瓜幕という地域の大きいバイオガスプラントです。2016年から稼働して、ここでは17軒の酪農家のふん尿を処理しています。ここは、終日処理の水量も多いということで、発電機が250kWの発電機を4台あり、年間の売電収入は2億円近くあります。これも先ほどの一つ目の施設と同じで、運営費にお金がかかります。ただ、施設が比較的新しいということもあって、今のうちに少し貯金をして、10年ぐらいすると発電機を取り替えたり、いろんなところが傷んでいきますので、そういったところに充てていきたいと思っております。

ただ、この二つの施設で合わせても、約30軒の酪農家のふん尿しか処理できません。今、鹿追町には80軒近くの酪農家がいるので、まだ3分の1強しかこういう集中型プラントで処理ができていません。

バイオガスプラント余剰熱活用事業（ハウス野菜・マンゴーなど）



農場産生鮮野菜・加工品セット（ふるさと納税返礼品）



東京百貨店で販売された農場産マンゴー



国際交流センター平成道で提供されているマンゴーパンナコッタ



広瀬バイオガスプラントの余剰熱活用ビニールハウス内



道の駅などで提供されている農場産生鮮野菜



2021年撮影 たわわに実った農場産マンゴー

それからもう一つが、チョウザメの飼育も行っています。地下水でチョウザメを飼うのですが、われわれの地域の地下水というと10度ぐらいしかありません。発電機の余剰熱を使って、少し水温を18度、19度ぐらいにすると、非常に餌をよく食べて早く成長します。最終的にはキャビアを安定的に採れるようにならないと、採算が合わないのです。チョウザメは10歳ぐらいから卵は持つのですが、商品として使えるキャビアはなかなか採れなくて、ようやく去年ぐらいから1匹2匹ずつ採れるようになりました。今、いろいろ加工の試験だとか、消費期限の調査に出して、できれば、来年ぐらいから出したいなと思っています。いいものであれば20gで1万円とか15,000円ぐらいで取引されます。

発電機の余剰熱を回収して行っている事業は、一つには、ハウスでの野菜栽培、あるいはマンゴーです。夏にマンゴーを出しても意味がないので、12月にマンゴーが収穫できるように、冬の間に貯めた雪で、夏場冷やして12月に採れるように調整をする。この事業も8年前から取り組んでいます。いいものは東京の伊勢丹とかに出荷していて、12月は一般的なシーズンではないため、高いものは1個2～3万円といった取引もされています。ただ、1,000個ぐらい採れるんですけど、東京に出せる高級品の割合をいかに高めるか、というのが課題だと思っています。

バイオガスプラント余剰熱活用事業（チョウザメ養殖事業）

<チョウザメの試食>



<稚魚>



<試験的に加工したキャビア>



<成魚>



“国内初”家畜ふん尿を活用した水素事業

2015年から環境省実証事業が本町で開始され、FCEVやFCフォークリフトの運用等の水素供給により、水素を安定して「つくる・はこぶ・つかう」ことを証明。実証の成功を踏まえ、2022年より町と民間企業が連携し水素サプライ事業を商用化。

現時点、町内で【21台】導入
(鹿追町10台・民間事業者9台・個人2台)



水素燃料電池車のみ
「中古車」を対象とした町
独自補助(2022年10月~)



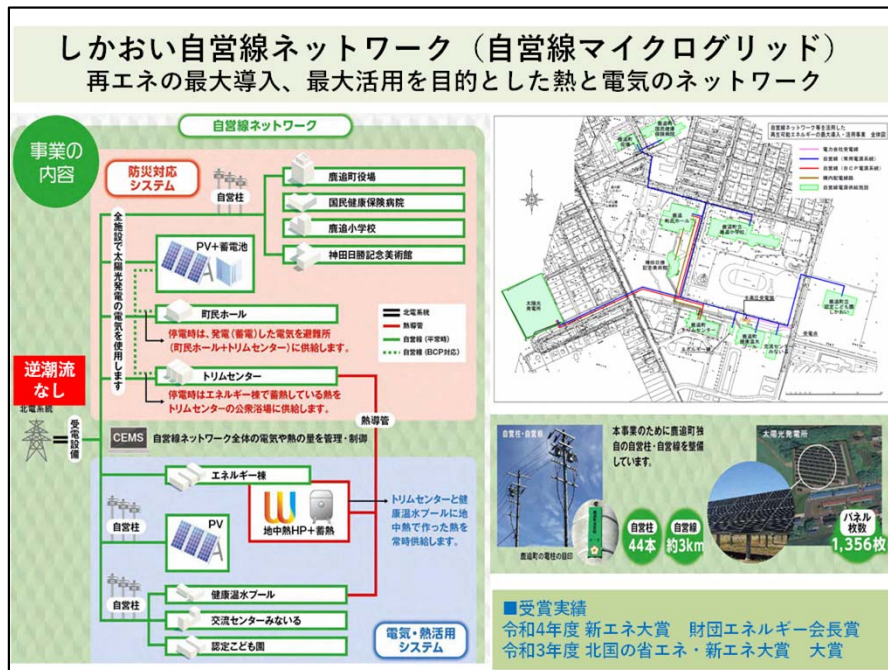
ようやく水素の話になります。まず水素に取り組むきっかけは、2015年から民間事業者の鹿島建設さん、エア・ウォーターさん、他5社さんが環境省の実証実験で、国内で初めて家畜ふん尿から水素を取り出すという実証事業に取り組んでくださったことです。FCEV、FCフォークリフトの運用等の水素供給により、水素サプライチェーンの構築を7年間やっていただいて、2022年にその実証事業は終わりました。その後、せっかくここまでやった事業なのでなんとか継続できないか、ということで環境省さんにご相談をして、町にこの実証施設を譲渡していただきました。そして、鹿島建設さんとエア・ウォーターさんで合併会社を作っていただきまして、昨年の4月から一般商用の水素ステーションとしてスタートしました。町の施設なので、町の方から水素の製造販売を委託するという形にしました。

なぜ水素かというと、皆さんご存知かと思いますが、FITは20年間という決まった期間があります。FIT制度ができてからまだ10年は経ってないんですけど、実はこの鹿追の最初の施設は2007年から、FITの前のRPS制度ということで売電をしていますので、そこから20年がカウントされています。あと4年でFITの期間が終わります。FITの期間が終わってもこの家畜ふん尿処理施設は、酪農が続く限り必ず続けていかなければいけない。何とか収入を受けていかなければならないということで、20年経ったらそのまま安くても電気を売るのか、あるいは他のエネルギーの活用が必要ではないかという選択肢の一つが水素でした。運良く、民間事業者の実証事業をやっていただいて、これについては非常にいい事業だと思っています。

そして、鹿追町も、姫島と同じく東京オリパラのオフィシャルカーを譲っていただきました。町の公用車として10台、あと去年、民間事業者と個人の方に声をかけさせていただいて9台、当初は合計19台のMIRAIでスタートしました。

その後、町で補助制度を作っています。国の補助金は新車対象になりますが、町としてはFCV、EVそれからPHVについては、補助金の対象になった方についてはその半額を町で上乗せをしております。FCVについてのみ、中古車もいいよということで、20%、50万円を上限に、ただ、水素のタンクの関係で寿命が15年と言われているので、少なくとも10年以上利用できるものに対しては、補助制度を導入しております。この時点では2台となっていますが、その後も何台か増えています。

もう一つ町の取り組みとして、自営線ネットワーク、自営線マイクログリッドの事業を行っております。遊休地を利用して太陽光発電をして、自前で電柱を立てて、9つの公共施設をつないでいます。北海道はブラックアウトを経験しておりますが、残念ながらその後にはできた施設です。ただ、その前に計画をしていました。いずれにしても9つの施設をつないで、電気は440kWで、全体の25%、30%程度しか発電できません。ただ、その中で、一つこのまちに入れているEV、それから、PHEVの充電をなるべく日中の電気の余っている時間に行って公用車として使っています。



行動変容については、職員はなるべく徒歩で出勤しましょう。仕事もできるだけ公用自転車を使いましょう、という取り組みをしています。それから住民向けにいろんな機会を設けて、住民の方にもこの脱炭素の取り組みを理解していただいています。

SHIKAOI“Zero Carbon+”Project

“ライフスタイルの変容”に焦点を当てた新たなProject.

<脱炭素×健康増進×経費削減>

「Town Bike Project」



公用自転車16台を配備
R3_CO2排出削減実績：182kg

「歩く、こぐProject」



職員に徒歩・自転車通勤を推奨
R3_CO2排出削減実績：7,013kg

【7.2tのCO2排出削減を実現】

12

町民と共に学び、考え、行動する機会を創出



2022.11.18 鹿追町ゼロカーボンセミナー
「気候危機と脱炭素地球づくり」

2023.1.12 Panasonic連携事業
「エネルギーの“創・蓄・省”もののづくり教室開催」

その他、行政区等に出前講座の実施中

全世帯に省エネハンドブックを配布

町民の皆さま
鹿追町長 喜井 知己

「実践！ おうちで省エネハンドブック」の配布について

年の瀬も押し迫り、何かと忙しい頃となりましたが、みなさまいかがお過ごしでしょうか。

この度、経済産業省北海道経済産業局のご協力により、省エネを実践するための具体的な方法や節約効果をまとめた「実践！ おうちで省エネハンドブック」を町民の皆さまにお配りさせていただくこととなりました。

本町は令和3年3月に「ハイオクスタンプ」を認定した脱炭素ゼロカーボンシティを宣言し、同年4月には「第1回脱炭素先行地域」に認定され、積極的に脱炭素施策を進めているところです。

「省エネ」は脱炭素につながるのはもちろんですが、原油価格・物価高騰対策にもつながる「お財布に優しい」取り組みです。ハンドブックを参考に、できることから実践していただき、省エネを生活の一部に取り入れてみてはいただいでしょうか。

最後になりましたが、皆さまのさらなるご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。

記

配布物：実践！ おうちで省エネハンドブック 1冊
※ごみ分別ハンドブックと同様に、更新されるまで「保存・活用」いただければ幸いです。



13

あと、昨年4月、第1回目の脱炭素先行地域26の地域のうちの1つに選ばれました。今、脱炭素の取り組みを一生懸命進めているところです。先行地域の内容を説明する時間がないのですが、後ろの方に資料が載っています。もし、ご関心のある方がいらっしゃれば、ぜひお問い合わせをいただきたいと思います。

鹿追町の取り組みのお話をさせていただきました。ご清聴、ありがとうございました。





2022.4.26
第1回脱炭素先行地域選定

北海道 鹿追町

多様なエネルギーの循環とレジリエンス強化、
環境価値の向上による地方創生モデル「MIRAI COUNTRY」の提唱



ZERO CARBON
HOKKAIDO
SHIKAOI



とかけ鹿追ジオパーク

ご清聴頂きましてありがとうございました。

鹿追町長 喜井 知己

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT GOALS

【優秀賞】

世界遺産石見銀山大森地区におけるGSMを中心とした地域内交通整備事業コンソーシアム

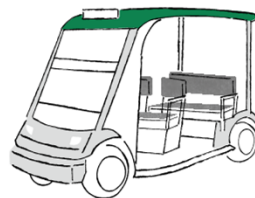
「世界遺産石見銀山大森地区におけるグリーンスローモビリティ（GSM）『ぎんざんカート』の運行」

株式会社バイタルリードの遠藤と申します。このような機会をいただきまして、ありがとうございます。本来はレンタサイクル事業者のレンタサイクル河村様が来られる予定だったのですが、急きょ来られなくなったということで、私がピンチヒッターとして登壇させていただきます。よろしくお願いします。

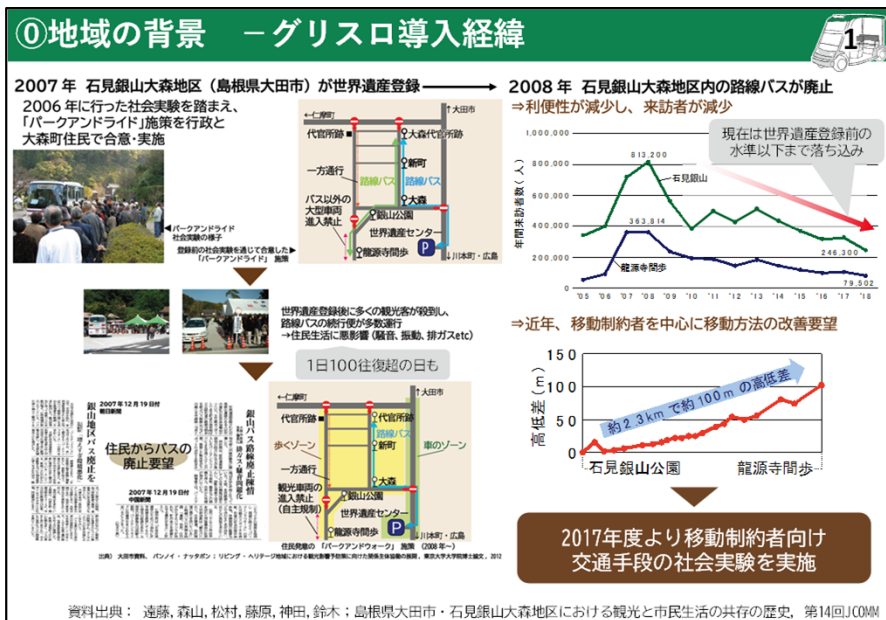
R5.7.18 EST交通環境大賞 授賞式ミニ講演

世界遺産石見銀山大森地区における GSMを中心とした地域内交通整備事業

- 島根県大田市
- レンタサイクル河村
- 株式会社バイタルリード
- 石見交通株式会社



石見銀山大森町
Iwamiginzan Silver Mine Omori-Cho
ぎんざんカート
Ginzan Cart



世界遺産岩見銀山大森地区は、2007年に石見銀山遺跡とその文化的景観ということで、世界遺産に登録されました。その世界遺産登録にあたって多くの観光客の方が来られるだろうということで、パークアンドライドという形で、交通対策を考えていました。地図をご覧くださいと、青い線と緑の線が2本の路線バスで、そこと駐車場を結ぶ、または観光地と結ぶということで、乗用車の流入を避けようと思いましたが、

しかし、その想定を上回るくらい非常に多くの観光客の方がいらっしやいまして、バスが全然需要に追いつかず、増便に増便を重ねた結果、1日100往復以上走るという結果になりました。その結果、ここの沿線にお住まいの方の生活が脅かされるということで、騒音、振動、または開発など、そういった被害が出てきました。

ということで、住民の方から「バスをもう頼むからやめてくれ」という要望が出てしまいました。

これを受けて、翌2008年に路線バスが廃止されたのですが、この地域はバス路線でいえば、およそ2kmから3kmぐらいあります。その間に100m以上標高が上がるような形で、ずっと上り坂が続きます。健康な方でないとなかなか歩けないということで、特に移動制約のある方を中心に何とかしてほしいという要望がかねてから出ておりました。

そういった観光地ですので、どんどん観光客の方がいらっしやらなくなって2018年現在で世界遺産登録前の水準まで落ち込んでいました。さらに、コロナでもっと減っていたという状況でした。

①地域の背景 — グリスロ導入経緯



【2017年度、2018年度の実証実験の結果】

- 電気軽自動車では収益、安全面に課題
(観光客は自動車走っていないと認識しているため、軽自動車の走行に驚く)
- ミニバンは大人数を運べるが、安全面で不安
- グリスロは狭幅員道路でも安全に走行でき、かつ、安全性の面でも優位(比較的人数も運べる)



▲グリスロとミニバンの比較モンタージュ

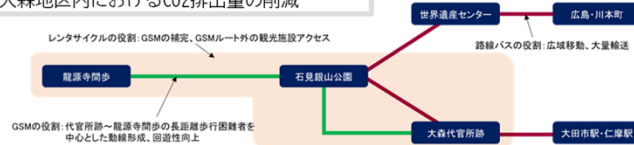
地域の反応は…

- 住民との意見交換でも、グリスロの走行が受容された
- 定期的に走行しても良いという意見が多く、公共交通としての運行可能性を見出した

→環境省の長期実証実験に応募することを決意

【実証実験の目的】

- 誰でも観光することができる一大観光地群の形成
- 地域の足を確保し、公共交通で生活できる地域の形成
- 地域内の交通機関を統合した交通体系の構築
- 石見銀山大森地区内におけるCO2排出量の削減



そうした中で2017年度から電気軽自動車ですとか、あとは写真を出しておりますけれども、グリーンスローモビリティと、それからバイオディーゼルのミニバンを使いまして、特に移動制約者向けの実験を行ってきました。地元の方からも移動制約者向けだったらいいということで許可をいただきましたが、グリスロを走らせたところ、これがいいと走行の評判が非常に良く、これだったら定期的に走ってもいいよ、と許可をいただきました。もちろんその許可をいただくためには、今日来る予定だったレンタサイクル河村さんのご尽力もありましたが、公共交通としてこれはいけるだろうということで、環境省の3年間の実証事業に応募いたしまして、無事採択をいただきました。

①事業概要 – 運行概要

- 実証期間：
2019年12月16日(月)～2021年12月31日(金)
(無償)2019年12月16日(月)～2021年3月28日(日)
(有償)2021年4月1日(木)～2021年12月31日(金)
→環境省事業終了後、2022年4月24日より本格運行開始

- 運行形態：自家用有償運送(大田市営)、定時定路線
- 使用車両：ヤマハAR-07 2台
- 運行便数：夏季(3月～11月)14往復
冬季(12月～2月)12往復

運賃：

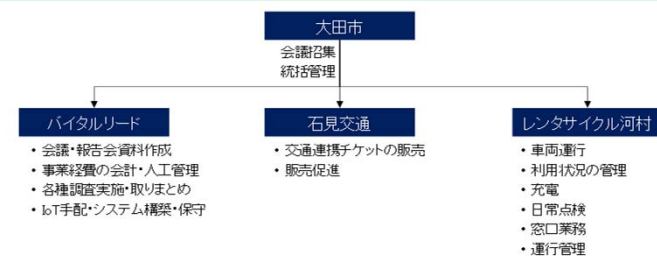


この事業はコンソーシアムという形になっていますが、大田市さんそれから弊社バイタルリードと地元の石見交通さん、そしてレンタサイクル河村さんで行っております。バス事業、レンタサイクル事業への影響、そして地域住民との対話、そういったところを特に重視してきました。また、このコンソーシアム内の関係は非常に密で、今もLINEで連絡を取っているぐらい濃い関係を築いています。

2019年12月から3年間の実証運行を行いまして、その後2022年、昨年度から本格運行を開始しています。グリスロも5年目になります。今、大田市の市営で定時定路線1日14往復という形で運行しておりますが、おかげさまで非常に多くのご利用をいただいています。

ルートとしては、中心である「大森代官所跡」というところから、街中を通過して「龍源寺間歩(まぶ)」という昔の坑道跡のところまで登って行って、帰りは通り抜けた後のところから、元のところに戻っていくという循環ルートを通っています。

①事業概要 – コンソーシアムの体制



- コンソーシアムの構成者の検討
 - ◎地域内で交通に関係する者(バス事業者、レンタサイクル事業者)
 - ◎交通事業に精通する者(コンサル会社)
 - ◎代表自治体(当初の背景から交通部局ではなく観光部局が対応)
- グリスロ運行における要配慮事項
 - ◎バス事業、レンタサイクル事業への影響(ルート設定、価格設定での考慮)
 - ◎地域住民との対話(定期的な自治会協議会への報告、住民ならではの合意形成)
 - ◎地域のブランディング戦略との統一感、広報等での協力体制構築
- コンソーシアムの定期的な活動
 - ◎コンソ会議の開催(月1回定例)：事業経過報告、情報共有、意見交換、コンソ内合意形成 等
 - ◎LINEを活用した(半ば私的に近いレベルでの)関係性の構築、密な連携

②利用状況の推移



・利用状況の推移

※2020年5月～2021年11月まで車両定員を4人に制限

	運行期間	年間 利用者数	1日あたり平均利用者数	
			平日	土日祝日
2020年度（無償）	4/1～3/28	12,455人	40.6人	59.6人
2021年度（有償）	4/1～12/31	9,255人	33.2人	50.1人
2022年度（有償）	4/24～3/31	18,863人	54.6人	82.5人
【参考】2022年度4～6月	4/24～6/30	3,798人	49.8人	87.3人
2023年度（有償）	4/1～6/30	5,997人	65.8人 (前年度+25.3%)	93.4人 (前年度+6.5%)

・環境省の実証事業期間中に実施した利用者アンケートより

- ・ ぎんざんカートが無い場合に観光を諦めたり、石見銀山に来なかった割合 = 6人/68人
→10%程度、龍源寺間歩来訪者数の増加に寄与

・ぎんざんカートの利用者層

- ・ 様々な年代がまんべんなく利用している（当初の想定と異なる）
- ・ 当初想定＝高齢者や障害者の利用が中心
- ・ 実際の利用＝高齢者・障害者の利用はもとより、（特にベビーカーを要する）親子連れや普段自転車に乗り慣れない人の利用が想定以上に多かった



このゴールデンウィークには90分待ちという状況がありました。今は、そこをどう対応していこうか、というところが問題なのと、本来の目的のバリアフリーというところがなかなか対応できてないというところが一つ課題としてあります。

お話しする内容はまだまだありますが、気になる方は、ぜひ石見銀山にいらしていただければ、ご案内いたします。どうぞよろしくお願いします。今日は、ありがとうございました。

利用状況は、今年に関して言いますと直近3ヶ月で約6,000人の利用があります。この3連休も360人、一時120人という利用がありました。ですので、今は、カートに乗り切れないという状況が起こっています。

③龍源寺間歩入場者数の推移



- ・ 龍源寺間歩入場者数は減少傾向にあったが、コロナ後にやや回復基調
 - ・ グリスロ運行以降も減少傾向（西日本豪雨、コロナの影響が大）
 - ・ 2023年以降はアフターコロナでの回復を期待（※2023年1～6月間歩入場者数37,836人＝前年同月比140%）
 - ・ ただし、オーバーツーリズムの経験もあるため、いたずらに来訪客を増やす方針ではない
- ・ 龍源寺間歩入場者数の増加に伴い、カートの利用者数も増加が期待
 - ・ 一方で、乗り切れないことも課題…
 - ・ バリアフリーの方への対応も今後の検討事項

今年のGWのtwitter

徒歩オンリーの石見銀山
レンタルサイクル1時間待ち
電動カートは90分待ちで、常に満員で途中乗車不可能…



午後3:17・2023年5月5日 106件の表示

7件のリプライ



【奨励賞】

奥入瀬溪流利用適正化協議会、奥入瀬溪流エコツーリズムプロジェクト実行委員会 「奥入瀬溪流エコツーリズムプロジェクト」

青森県土整備部道路課の倉谷と申します。どうぞ、よろしくお願いします。

このたびは、名誉ある賞をいただきまして大変ありがとうございます。本来であれば、所属長である鈴木課長がご説明する予定だったのですが、残念ながら欠席のため、代理でご説明させていただきます。



まず、奥入瀬溪流エコツーリズムプロジェクトをご紹介します。このプロジェクトは、大きく二つ取り組みがあります。一つめは、国道におけるマイカー交通規制をしています。それから二つめは、この交通規制の中で、エコロードフェスタというお祭りを行うという取り組みです。この度受賞した団体のうち、奥入瀬溪流利用適正化協議会が前者のマイカー交通規制、エコツーリズムプロジェクト実行委員会が後者のお祭り部門のエコロードフェスタを行っています。

奥入瀬溪流に来たことがない方がいらっしゃるかなと思いますので、まずは場所についてお話ししたいと思います。奥入瀬溪流は十和田市八戸市の西側にあります。十和田湖から1本だけ太平洋側に流れている川が奥入瀬川です。特に十和田湖から約14kmの区間は、奥入瀬溪流と呼ばれています。この奥入瀬溪流の大きな特徴は、国道102号が奥入瀬溪流に沿って走っていることです。このため、奥入瀬溪流にアクセスしやすい特徴があります。

その国道102号は、先ほどの表彰式でも市長からお話があったのですが、十和田湖の下の方に休屋地区という集落がありまして、十和田市内へ行く生活道路となっています。さらに青森県と秋田県を結ぶ、広域のルートになっています。観光客もたくさんいらっしゃるような、そういった奥入瀬溪流区間です。



奥入瀬溪流と十和田湖について



▲十和田八幡平国立公園と特別保護地区
出典:環境庁自然保護局・青森県自然保護課・秋田県自然保護課 平成9年8月「十和田・八幡平国立公園(十和田・八甲田地域)」区域及び公園計画図

特徴①:国を代表する優れた景観

- ・奥入瀬溪流は国立公園の中でも最も保全基準の厳しい**特別保護地区**に指定されており、元来自然環境を良好に保全すべき地区となっている。
- ・国が文化財保護法に基づく**特別名勝及び天然記念物**に指定されている。(特別名勝は全国に36箇所)

特徴②:豊かな動植物の生息環境

- ・国指定植物が300種以上植生し、ツキノワグマやカモシカ、クマゲラなどの**希少動物**も数多く生息している。

特徴③:国内有数の観光資源

- ・日本蘇苔類学会において「日本の貴重なコケの森」に認定
- ・溪流のせせらぎや鳥のさえずりなど、“音”も魅力の一つで、環境省の「**残したい日本の音風景100選**」にも選ばれ、目だけでなく耳でも楽しめるのも魅力

奥入瀬溪流利用適正化協議会・奥入瀬溪流エコツーリズムプロジェクト実行委員会

2

先ほど道があるという話をさせていただきました。観光があるということで、道があるとアプローチしやすいというところから、かなり多くの方がいらっしゃいます。このように行楽シーズンは左の写真のように、渋滞が発生して環境への負荷があります。では、マイカー規制をしようということで、平成15年度よりマイカー規制を社会実験として取り組んでいます。

奥入瀬溪流と十和田湖はどんなところなのかという話ですが、奥入瀬溪流は国立公園です。しかも奥入瀬溪流は特別な地区に指定されています。さらに文化財保護法に基づく特別名勝、それから天然記念物。この三つが指定されているということで、環境、それから景観が素晴らしいところなんだな、ということが少し分かっていただけるのかなと思います。

行楽シーズンの渋滞→マイカー規制実施へ



渋滞

- ・奥入瀬溪流区間は、行楽シーズンにおいて車両の集中、路上駐車等により著しい渋滞。
【奥入瀬溪流通過時間：通常時18分 → 渋滞時:1時間30分】



環境への負荷

- ・渋滞や走行性低下、路上駐車による環境負荷が懸念。
- ・自然環境はもちろん、散策者などの利用者にも決して良い環境とは言えない状況。



マイカー規制実施へ

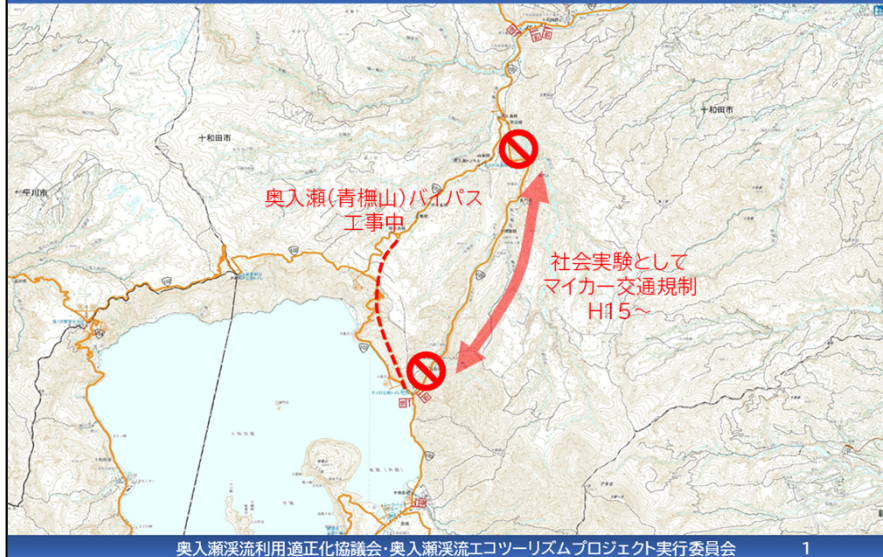
- ・環境保全と渋滞対策のため、平成15年度より**マイカー規制**を実施。

マイカー規制を実施するにあたって、ここの部分、奥入瀬青樺山バイパスということで、代替ルートが必要になりますので、直轄権限代行事業として国土交通省さんにトンネル工事を実施していただいています。これが開通した暁には、奥入瀬の区間一部分十数kmですが、移動区間を24時間365日、交通規制をするという内容になっております。社会実験としてこの区間では、平成15年より交通規制をしています。

国道102号 奥入瀬溪流について



国道102号 奥入瀬溪流について



その中でエコロードフェスタという取り組みを実施しています。

今回は割愛しますが、詳しくはロビーの方にあるパンフレットを見ていただければと思っています。マイカー交通規制をしますと、区間は10kmと長いので、シャトルバスは運行している。さらに地元高校生のボランティアガイド、苔観察スポットというようなことを実施しています。

それから、未来の奥入瀬体験ツアーということで、グリスロを走らせて環境教育をしています。それからトンネル工事等もしています。

毎年のマイカー交通規制は10月に実施しています。今年は10月23日から29日までの7日間、実施予定ですので、皆さま、いらしていただければと思います。以上です。ありがとうございました。

エコロードフェスタ①

エコロードフェスタ①

奥入瀬渓流マイカー交通規制にご協力下さい。

エコロードフェスタ同時開催!

2019/10/24(土) 2019/10/25(日) 2019/10/26(土) 2019/10/27(日)

規制区間 ① 国道102号奥入瀬渓流区間
国道102号意込交差点～子ノ口交差点
《自動車・自動二輪 規制区間》車両通行止め

規制区間 ② 国道102号七曲区間
子ノ口交差点～青嶺山交差点
大型車・特定中型車 車両通行止め

奥入瀬渓流利用適正化協議会・奥入瀬渓流エコツーリズムプロジェクト実行委員会

奥入瀬渓流 エコツーリズムプロジェクト

令和5年10月23日～29日の7日間 開催予定。
皆様のお越しをお待ちしております。

【奨励賞】

城崎温泉交通環境改善協議会

「地域一体となった『そぞろ歩きルール』の実施」

2023.7.18



地域一体となった
「そぞろ歩きルール」の実施

城崎温泉交通環境改善協議会

1. 城崎温泉の概況と課題
2. 協議会の設立と取組み
3. そぞろ歩きルールの実施と効果
4. 今後の展開

ご紹介いただきました西村です。

城崎温泉は兵庫県の北東の端、豊岡市の北部に位置し、開湯1300年の歴史を持つ温泉地です。平成の大合併で6市町が合併し、城崎町は豊岡市の一部となりました。兵庫県は約540万の人口ですが、但馬地方で16万人弱、豊岡市は8万人を切っていますので、人口減少が進んでおります。

温泉街は、駅を玄関口として端まで2km弱、三方を山に囲まれた谷あいの温泉地です。七つの外湯巡りが名物で、柳並木や木造3階建ての街並みは、城崎温泉を代表する風景です。

1. 城崎温泉の概況と課題

(1) 城崎温泉の位置

【兵庫県 豊岡市の北部に位置】



【開湯から1300年の歴史ある温泉地】



1. 城崎温泉の概況と課題

(2) 城崎温泉の情景



大谿川と柳並木



温泉街には七つの外湯
木造三階建ての旅館の町並み

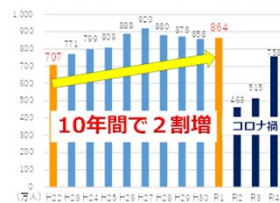
入込客数はコロナ前までは堅調に推移していまして、このグラフは宿泊と日帰りの合計ですが、うち宿泊のお客様が60万人強です。それを牽引しているのは一つの要因が海外のお客様で、10年間で約30倍の伸びを示しました。日本人のお客様は、松葉ガニシーズンである冬にお越しになるんですが、海外のお客様はそれ以外のシーズンに来るということで、繁閑の差を埋める上でも大変ありがたいお客様です。

観光で訪れるお客様、とりわけ海外のお客様にも人気があるのが、下駄履き、浴衣がけ、外湯巡り、街並みを楽しむそぞろ歩きなのですが、その魅力を妨げているのが狭い道路に人と車が混在する慢性的な交通渋滞です。それほど大きなものではございませんが、事故も発生しやすくなっております。

1. 城崎温泉の概況と課題

(3) 城崎温泉の入込客数の推移

観光入込客数の推移



外国人宿泊者数の推移



1. 城崎温泉の概況と課題

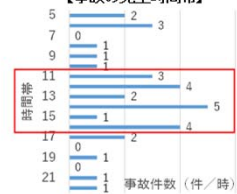
(4) 繁忙期の交通渋滞と事故の発生状況



【事故の発生曜日】



【事故の発生時間帯】



繁忙期に事故が増加

人口減少が進み、衰退が危ぶまれる中で、交流人口を増やすことにより定住人口の減少に歯どめをかけるには、温泉街の活性化が不可欠である。街の根源的な魅力を毀損(きそん)している交通環境の改善策を検討しようということで、2012年にまずは40歳未満の若手事業者を中心に、民間ベースで活動を始めました。

2016年からは行政のバックアップを受けて、住民、事業者団体、学識経験者でなるわれわれの協議会が発足しました。こちら協議会発足当初の住民との意見交換会、ワークショップを行ったときの様子です。

ワークショップで検討された方策の有効性を証するために、2018年に歩行空間拡大実験、2019年には駐停車抑制実験を行いました。アドバイザーの先生にご指導いただきながら車の使用時間のルールから、一部道路への一方通行化が有効であるということが立証されました。

2. 協議会の設立と取り組み

(1) 協議会の設立と地域住民の意見収集

協議会の設立（2016年6月）

地域住民	関係事業者団体
町内会長会 豊岡市消防防犯 城崎中学校PTA 城崎小学校PTA 城崎こども園 城崎このさき100年会議	城崎温泉観光協会 城崎温泉旅館協同組合 豊岡市商工会城崎支部 商業組合 城崎町工業会 城崎鮮魚商組合 城崎温泉飲食店組合 城崎温泉旅館組合
行政	学識経験者
兵庫県（オブザーバー） 豊岡市（事務局）	土井 勉（博士（工学））



意見収集のためのワークショップを開催



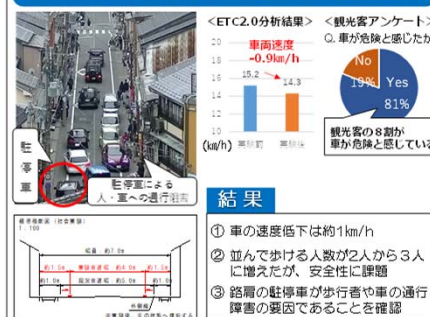
- ・安全な“そぞろ歩き”を最も実現したい路線を確認
- ・実現への方策として車両通行規制を検討

2. 協議会の設立と取り組み

(2) 交通環境の改善に向けた社会実験の実施

歩行空間拡大実験（2018.2.21～3.22）

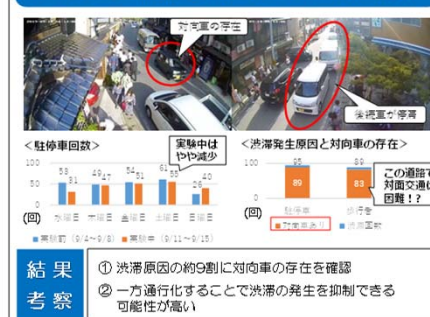
【両側の路肩を50cmずつ広げ、車両走行速度の低下による歩行者の安全性向上を図る】



実験により、車の使用時間のルールや、湯の里通りの一方通行化の必要性を認識

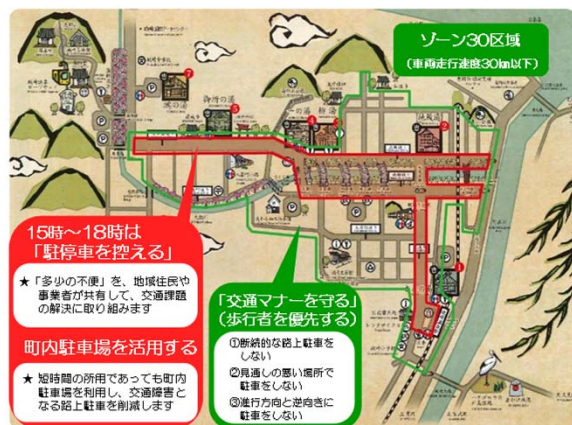
駐停車抑制実験（2019.9.11～9.15）

【関係事業者に実験期間中の駐停車を抑えるよう依頼し、交通環境の改善を図る】



3. そぞろ歩きルールの実施と効果

(1) そぞろ歩きルールの実施 (2020.12.1より)



合意形成への道のり

活動誌を配布 (12回) ※当時



意見交換会を繰り返し実施



-7-

抜本的な改善につながる大がかりな方策の前に、まずは今すぐできること、小さなことから始めようとして取り組んだのが「そぞろ歩きルール」の策定です。車を使用する時間の配慮やマナーの向上、物産等の卸業者の皆さまには、さらに集配時間の調整等、住民や事業者が協力して環境改善をできるように進めています。ルールの内容を決定する過程では、活動広報誌を配布して、意見交換会を繰り返し行っております。丁寧な合意形成を図ることを心がけました。

今後さらに取り組みを進めるために、ルールの効果検証を行いました。検証は対象期間である15時から18時の間の自動車交通量や駐車台数等の項目を調査し、過去と比較をしています。それぞれの項目で改善されていることが分かり、ルールの取り組みによる効果を感じることができました。

3. そぞろ歩きルールの実施と効果 (2) 「そぞろ歩きルール」の効果検証

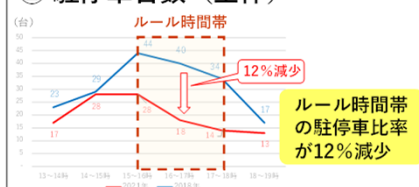
① 自動車交通量



③ 駐停車台数 (配送関係のみ)



② 駐停車台数 (全体)



④ 歩行者の車道への「はみ出し」



-8-

3. そぞろ歩きルールの実施と効果

(3) 継続的な周知活動の実施

【事業者間の調整会議を随時開催】 (2022年12月22日 ワークショップ形式で開催)



ルールによる変化は？

- ・業者の配送が減り、渋滞の解消につながっている。

今からでもできることは？

- ・さらに理解を深めるため、家族や従業員、事業者同士でルールのことを話し合う。
- ・町内では、なるべく歩くことを心がける。

【小型車両を導入する動きが加速】



【配達業務】

物品の運搬に小型自動車を活用。荷卸の際の影響を、最小限に抑える。

小型自動車



【バス事業者】

期間限定で小型バスの循環運行を実施。大型車の離合時に発生する交通渋滞を防ぐ。

小型バス

この効果を高めるためには、更なる地域へのルール浸透を図る必要があります。このため、協議会で音頭をとり、事業者間の連絡調整会議を開催しています。参加者からは、1回の仕入れ数を増やして計画的に注文するようになった。交通量の少ない時間に配送を依頼するようになったなど、日常業務における変化が報告されました。さらに、配達の際に小型車を利用することや、路線バスのダウンサイジング化を検討する動きも出てきました。このようにルールの取り組みを通じて、人々の意識変容が起きていると実感しております。

3. 今後の展開

歩行者を中心としたまちづくりの推進

① 交通環境改善計画を策定 (2021年7月)

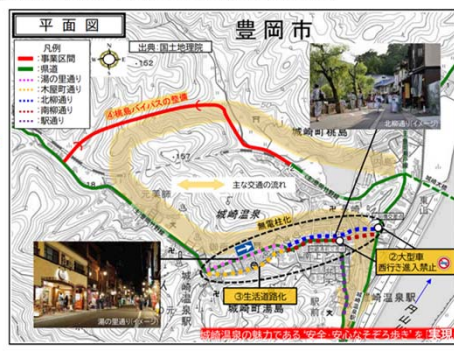


【計画の柱】

- ◆地域の取り組み「そぞろ歩きルール」を推進
- ◆将来、湯の里通りを一方通行化

桃島バイパス
事業化が実現

② 2023年度 桃島バイパス新規事業着手



地域住民で将来的なビジョンを共有し、持続可能なまちづくりを推進します！
ご清聴ありがとうございました

-10-

最後に、今後の展開について申し上げます。2012年に活動を開始したときの想いとしては、人口減少による地域の衰退に歯止めをかけるため、城崎温泉の持つ魅力を高めよう、そのために交通環境の改善を実現しようというものでした。今すぐできることから取り組もうということで、2020年にそぞろ歩きルールを策定しました。また、温泉街の道路を一方通行化することを柱とした交通環境改善計画を兵庫県に提出しています。これらを受けて、今年、兵庫県は温泉街を迂回できるバイパス整備の事業に着手されました。このバイパスを活用した街のあり方についてさらなる検討を進めており、例としては、車を極力温泉街に入れないということでフリーパーキングの設置も検討しております。

住民の皆さまと、まちの将来ビジョンを共有するための社会実験を実施したいと考えております。その際は、ぜひとも国の皆さんの支援制度を活用させていただいておりますので、よろしくお願いいたします。引き続き、地元住民が主体となって、交流人口の拡大による地域の活性化、経済活動だけでなく、環境にも配慮し、ハード・ソフト両面から全体を俯瞰したグランドデザインを描き、持続可能なまちづくりを進めてまいります。今後とも温かいご支援とご指導をいただければと思います。本日はありがとうございました。

【奨励賞】

和歌山県

「WAKAYAMA8∞ ～サイクリングを活用した、持続可能な観光地づくり～」

ただいまご紹介いただきました和歌山県観光振興課の林です。

WAKAYAMA800 ～サイクリング王国わかやま～

WAKAYAMA 800

和歌山県では、県内全域に800kmを超えるサイクリングの推奨ルート(ブルーラインを整備)と「世界遺産」や「絶景」「温泉」「グルメ」などを組み合わせて巡っていただくことで無限大のサイクリング旅が楽しめる県としてPR

■サイクリングロードの整備

県内全域に広がる800kmを超えるサイクリングロード(WAKAYAMA800)には、専用道路やブルーラインを整備するなど、サイクリストをサポート。さらに、令和3年5月に本県の海岸エリアを含め「太平洋岸自転車道」がナショナルサイクルルートに指定。(千葉県銚子市～和歌山市加太)

～サイクリングスポット～



紀の川サイクリングロード



橋杭岩(串本町)



高野山大門(高野町)



終点モニュメント(和歌山市加太)



円月島(白浜町)

和歌山県からは、「WAKAYAMA800～サイクリング王国わかやま～」ということで、サイクリングを活用しました持続可能な観光地づくりの取り組みを紹介します。

近年、サイクリングは健康志向の高まりや、環境に優しい移動手段ということで、ますます注目が高まってきております。和歌山県としましても、他の交通手段では行くことのできない場所を自転車で巡ってもらうことで、これまで集客力の弱かった地域にも、観光客を誘導して、県内の周遊を促進することによりまして、地域の消費拡大にもつながればと考えまして、約8年前からサイクリングの施策に取り組んでいます。

「WAKAYAMA800」というニックネームですが、サイクリストを比較的車の少ないおすすめの周遊ルートに誘導するために、県内全域に道路の左側にブルーの矢印型路面表示を整備しております。その距離が800kmにわたっているということで、これが「800」の由来となっております。また、県内には旅の目的地となる世界遺産の高野山、熊野三山、それと海山川の絶景や源泉かけ流しの温泉などもたくさんあります。これら観光資源とサイクリングのさまざまな周遊ルートを組み合わせ、無限大にサイクリング旅が楽しめる和歌山県という意味も込めまして、ロゴの「800」の「00」の部分には、無限大の記号「∞」となっております。

次に、サイクリストを受け入れるために欠かせない、受入環境整備です。本県では、安心快適に滞在していただけるように、サイクリストに優しい宿の認定制度を作りまして、現在も宿泊施設に働きかけたりしながら、認定の数を増やす取り組みを行っています。認定条件としましては、自転車をそのままの状態に客室に持ち込めること、スポーツバイク用の空気入れとか工具の無料貸し出しサービスなどが要件となっています。あとは、和歌山県南部の白浜町に南紀白浜空港があるのですが、サイクリストに優しい空港として認定をしております。ここは、東京の羽田空港から飛行機で約1時間と、非常に便利な空港です。近くにはジャイアントパンダがたくさんいるテーマパーク、アドベンチャーワールドもあります。その他にも受け入れ環境整備として、案内看板を整備し、サイクリストが休憩メンテナンスを行うことができるサイクルステーションも、県内全域に設置して今も増やしていっています。

続きまして、サイクルトレインの紹介です。JR西日本さんに協力をいただきながら、普通列車に自転車をそのまま持ち込める、しかも、追加料金なし予約不要のサイクルトレインの運行を令和3年からいただいております。去年からは、特急列車にも、自転車をそのまま持ち込めるようにもしております。

受入環境整備

■ **サイクリストに優しい宿**の認定・拡充
サイクリストが安心・快適に滞在ができる「サイクリストに優しい宿」に**72施設**を認定。



■ **サイクリストに優しい空港**の認定
平成30年12月に南紀白浜空港を認定。



■ **案内看板・路面表示**の充実
矢羽根型路面表示の整備等。



■ **サイクルステーション**の設置・拡充
サイクリストが休憩やメンテナンスを行える「サイクルステーション」を県内全域で**335ヶ所**設置。



受入環境整備

■ **JRきのくに線（在来線）サイクルトレイン**
自転車をそのまま持ち込み可能なサイクルトレインが運行。
【区間】きのくに線 普通列車 御坊駅～新宮駅の各駅間
【時間】平日・土 朝の通勤混雑列車（6本）以外で利用可
日・祝日 終日利用可



■ **特急「くろしおサイクル」**
白浜駅、串本駅、紀伊勝浦駅、新宮駅
(1日最大6往復)




情報発信・誘客プロモーション

■ **WAKAYAMA800
モバイルスタンプラリー 6th season**

県内を周遊しながら、観光地を満喫いただけるよう、スマートフォン等と連動したモバイルスタンプラリーを実施中。

▶ 期間 令和5年5月1日～令和6年3月22日

▶ 実施内容

- 県内65か所のチェックスポットをめくり、スタンプを集めて抽選で豪華賞品が当たる。
- おすすめルートを何回も走破し、上位ランキングを目指そう！

ランキング上位30名に、もちろん豪華賞品をプレゼント！

【これまでのPR企画】

■ **有名自転車レースアニメ「弱虫ペダル」
とのタイアップキャンペーン**

弱虫ペダル（アニメ）とタイアップした特別版モバイルスタンプラリーを実施し、誘客を促進。



次に、県内を周遊促進する取り組みとして、モバイルスタンプラリーを実施しておりまして、今年で6回目となります。実施期間中に指定したチェックポイントをできるだけたくさん回ってもらって、獲得ポイント数に応じて商品もらえるようになっています。いろんなデータも取ることができるのも、特徴となっています。

また、これまでも期間限定で、自転車の人気アニメ、『弱虫ペダル』とのタイアップなどを行って、アニメのファン層も取り込みながら、参加者の増加にもつなげているところです。

情報発信につきましては、サイクリングのウェブサイトをはじめ専門誌、そしてSNS、自転車系のYouTuberとタイアップして行っております。

情報発信・誘客プロモーション

■ **サイクリング専門誌・WEBでの発信**
サイクリング専門誌や健康誌、フリーペーパー等、各種媒体での情報発信を実施。

- 雑誌「CYCLE SPORTS」
～ 巡礼の自転車行 熊野古道へ ～
- 雑誌／WEB「Bicycle Club」
～ 熊野を走る ～
- WEB「FRAME」
～ 和歌山パンライド！きのくに線サイクリングトレインで巡るおすすめのパン屋 ～
- WEB「Bicycle Club」
～ くろしおサイクル運行開始 & 南海フェリー割引 ～
- WEB「CYCLE SPORTS」
～ きのくに線特急「くろしおサイクル」スタート！ ～
- タブloid誌「Cycle」
～ サイクルトレインを紹介 ～
- フリーペーパー「Prime Time」
～ 今年はチャレンジ！ 自転車旅を楽しむ ～



情報発信・誘客プロモーション

■和歌山県サイクリングイベント等実施支援事業補助金

自立的かつ継続的な民間主体のサイクリングイベント等が県内各地で催される状況を創出することで、県内の観光振興を図ることを目的に、県内でサイクリングイベント等を実施する民間事業者等を支援。

＜過去に補助したイベント＞
ぐるっと古座川サイクリングフェスタ など



最後に、サイクリングイベントの補助制度ですが、現在は民間事業者にできるだけ実施してもらうように、補助金制度を設けて県内各地でのイベントの促進を行っているところです。

以上が、現在行っている取り組みです。今後も引き続き、サイクリングを活用した持続可能な観光地づくりを進めるために、環境に優しく健康増進にもつながるさまざまなサイクリング施策を続けて頑張っていきたいと思いますので、応援のほどよろしくお願いします。本日は、ありがとうございました。

2. 審査講評

EST普及推進委員会委員長 加藤 博和
名古屋大学大学院環境学研究科 教授

環境的に持続可能な交通(EST)の普及に向けて本表彰を開始し、今年度、13回目を迎えた。今回はコロナ禍の厳しい社会情勢下であったが、全国から16件(自治体等3件、民間企業6件、市民団体2件、共同提案5件)もの優良事例を応募いただいた。厳選された内容の応募を全国からいただくことができ、まずは審査委員長として応募団体の皆様へ厚く御礼申し上げます。

今回受賞した個々の取組について紹介すると、まず、大賞2点のうち、国土交通大臣賞のT-PLAN株式会社、一般社団法人姫島エコツーリズムは、レンタカーとして貸し出している全ての小型EVを、車庫に設置した太陽光発電システムと蓄電システムで充電する取組みである。EVを活用した地域住民の移動手段の確保や、国内の他地域やパラオ共和国での地域交通・観光交通でのEV普及にも取り組んでいる。第8回EST交通環境大賞では、奨励賞を授賞した。前回の授賞時からレンタカー事業の拡大を図り、利用件数等が増加している点は、取組みの着実な推進の成果である。EVの充電にかかる電力を全て再生可能エネルギーとするゼロカーボン・ドライブ実現、地域の移動手段として活用することでの住民の意識変容への寄与、姫島におけるエコツーリズムを持続可能な事業としての運営、長年の実績をもとに国内外のグリーンスローモビリティの普及促進にも寄与していることを評価して、大賞を授賞することとした。

次に、環境大臣賞の鹿追町は、市街地への臭気が地域課題となっていた家畜排せつ物の適正処理のために、バイオガスプラントとそれを活用した水素の製造・供給ラインを整備し、北海道内では初となる定置式の水素ガスステーションを設置し、町内で燃料電池自動車(FCEV)を普及させた取組みである。農業が産業の中心の町として、家畜ふん尿由来水素と、交通分野での脱炭素化を関連付けている点は、地域の特性を活かした独創性があるといえる。自動車が日常的な移動手段として不可欠である状況で脱炭素化を推進するために、町独自の購入補助制度も導入してFCEVの普及推進を図っている点は特徴的である。また、全庁的に脱炭素化に取り組む体制を構築し、町役場を中心に徒歩・自転車通勤への転換を図る等の町全体での行動変容を促している。地域の産業課題と交通課題の解決にあたって水素ガスに着眼して取り組み、その自給自足による脱炭素化に向け寄与していることを評価して、大賞を授賞することとした。

優秀賞の世界遺産石見銀山大森地区におけるGSMを中心とした地域内交通整備事業コンソーシアムは、地区内の徒歩以外での移動手段確保のためグリーンスローモビリティを本格運行している取組みである。地元のキーパーソンが中心となり、地域との対話を通じた最適な移動手段の導入に向けた合意形成や、地域主体の組織の立ち上げによる持続的な運営体制の構築を図っている。地方部の観光地における移動手段確保と地域活性化の両面に寄与する持続可能な取組みとして評価し、優秀賞を授賞することとした。

奨励賞は3件あり、まず奥入瀬溪流利用適正化協議会、奥入瀬溪流エコツーリズムプロジェクト実行委員会は、マイカー観光による渋滞や路上駐停車、騒音等の問題に対し、シャトルバス運行や環境教育等のエコツーリズムを推進している。国立公園内かつ国道での交通規制という制約の中、20年以上の実績を重ねて環境保全に貢献したことを評価した。2件目の城崎温泉交通環境改善協議会は、温泉街の外湯等を巡る「そぞろ歩き」を安全に楽しむため、路上駐停車抑制等の「そぞろ歩きルール」を制定した。地域住民・関係事業者が一丸となって地域に合った解決策を模索し、交通課題の解決を図ったことを評価した。3件目の和歌山県は、県内全域に総延長800kmのサイクリング推奨ルートを整備し、「WAKAYAMA8∞」ロゴにより施策全体をブランディングし、環境整備や周遊促進等に一体的に取り組んでいる。モバイルスタンプラリーを活用した施策効果の分析等、他地域でも参考となる好事例であることを評価した。

本日我々は、第13回EST交通環境大賞の受賞団体を大いに讃えたい。また、残念ながら今回は受賞対象とならなかった団体でも優れた取組事例があり、取組を継続し実績が重なることによって受賞に至るため、今後も粘り強く取り組んでいただくことを希望する。

3. 表彰式

- 2023年7月18日(火)に、第13回 EST普及推進フォーラムにおいて、第13回 EST交通環境大賞の表彰式を行いました。表彰式では、国土交通省 岩城次長、環境省 酒井課長、EST普及推進委員会 加藤委員長から、各賞授与 及び 審査講評が行われました。



4. 各種報道

- 2023年6月1日(木)日経BP「第13回EST交通環境大賞、大分県姫島村と北海道鹿追町での取り組みが大賞に」において、T-PLAN株式会社・一般社団法人姫島エコツーリズム、鹿追町の受賞に関する記事が掲載されました。
- 2023年6月5日(月)東京交通新聞「EST交通環境大賞」において、T-PLAN株式会社・一般社団法人姫島エコツーリズム、世界遺産石見銀山大森地区におけるGSMを中心とした地域内交通整備事業コンソーシアムの受賞に関する記事が掲載されました。
- 2023年6月20日(火)大分合同新聞「大分県内ニュース」において、T-PLAN株式会社・一般社団法人姫島エコツーリズムの受賞に関する記事が掲載されました。

- 2023年7月14日(金)東奥日報「奥入瀬2団体に奨励賞」において、奥入瀬溪流利用適正化協議会・奥入瀬溪流エコツーリズムプロジェクト実行委員会の受賞に関する記事が掲載されました。
- 2023年7月19日(水)デーリー東北「奥入瀬溪流2団体奨励賞」において、奥入瀬溪流利用適正化協議会・奥入瀬溪流エコツーリズムプロジェクト実行委員会の受賞、EST普及推進フォーラムに関する記事が掲載されました。
- 2023年7月19日(水)十勝毎日新聞「最高賞の鹿追町表彰EST交通環境大賞」において、鹿追町の受賞、表彰式に関する記事が掲載されました。
- 2023年7月24日(月)交通毎日新聞「ESTフォーラム開催」において、EST普及推進フォーラム、表彰式に関する記事が掲載されました。
- 2023年8月21日(月)北海道新聞「鹿追町にEST大賞」において、鹿追町の受賞、EST普及推進フォーラムに関する記事が掲載されました。



【環境的に持続可能な交通(EST)普及推進委員会事務局】
公益財団法人 交通エコロジー・モビリティ財団（担当:中道）
〒112-0004 東京都文京区後楽1-4-14 後楽森ビル10階
TEL:03-5844-6268 E-mail:EST@ecomomo.or.jp